

ないと思います。

原因は大会を計画する関係者が、いたずらに前例踏襲の安易な考え方から抜け出せないでいるせいではないかと思われます。思いきって前例を無視した革命的大会プログラムを編成する勇気とアイデアが必要だと思います。このことは地区協議会の部門別協議のあり方、IGFのプログラム編成にも適用することではありますまいか？

伊藤R I理事はじめベテランロータリアン達にも地区大会のあり方に強い不満があることでもあり、各地区の関係者は大胆に革新的プログラムを実行されたらいかがでしょうか。(新聞発行・79歳・会員歴24年・福岡県)

## 前例踏襲を排して 革新的地区大会を

福岡西 梶原 景親

十一月号の座談会「地区大会のあり方について考える」を大変うれしく読んだ。

日本のロータリーの指導的立場にある人達も、われわれと同じ考え方で、最近の各地区の大会のあり方に不満をもっておられることがよくわかりました。

平島PGのいわれるように最近の大会ではステージの上からの一方通行でフロアとの交流は全くありません。まるでお説教を聞いている感じます。原因のひとつは参加者数の増大もあるかも知れませんが、千人、二千人に全部発言してもらわなくとも、フロアとステージとの交流をはかる演出は決して不可能では